

第1学年 算数科学習指導案

美咲町立柵原東小学校

1 単元名 たしざん（2）

2 単元の目標

- ・ 繰り上がりのある計算の仕方について理解し、（1位数）＋（1位数）の繰り上がりのある計算ができる。 【知識・技能】
- ・ 数の合成・分解や、10の補数に着目して、加数を分解してたしたり、被加数を分解してたしたりする考え方ができる。 【思考・判断・表現】
- ・ 繰り上がりのある計算に興味を持ち、「10の補数」という考えのよさに気づき、進んで計算しようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】

3 単元計画（全11時間）

次	時	主な学習活動 ☆協同的探究学習	協同的探究学習場面における ○指導内容 ●留意点
1	1	・ 答えが10より大きくなるたし算は、どうやって計算するか考える。 ☆協同的探究学習	○ 答えが10より大きいたし算は、10のまとまりを作ればよい。 ● 多様な方法を認める。
2	1	・ 9に加える型（9はあと1で10）の加数分解の方法を知る。 ① ブロック・ブロック図を用いて計算する。 ② 式と補助記号を用いて計算する。 ③ 加数が9の場合を考える。 ☆協同的探究学習	○ 9が後ろに来たときは、被加数を分解して、10を作ることもできる。 ● 低位の児童が混乱しないようにする。
	2		
	3		
2	4	・ 8に加える型（8はあと2で10）、の加数分解の方法を知る。 ① 加数が8の場合を考える。	
	5	・ 7、6に加える型やいろいろな計算を行う。	
	6	・ 「5と5で10」が便利なきをを考える。	
3	1	・ たしざんカードを用いて計算を行う。	
	2	・ 計算カードの規則性を考える。	
	3	・ たしかめ問題を解く。	
	4	・ たし算のおてがみ、カードゲームを行い、学習を振り返る。	

4 本時案 (第1次 第1時)

(1) 本時の目標 (わかる学力)

答えが10をこえるたし算のとき、10のまとまりを作って答えを求める方法を考え、説明することができる。

(2) 展開

導入問題

きのう、こうえんでどんぐりをひろいました。おねえさんは8こ、おとうとは7こひろいました。ぜんぶでなんこになるでしょう。

- ・全員で演算決定、立式をする。 ・ $8 + 7 =$ (こたえは15だ!)

個別探究

- ・今までのたし算と、どこがちがうか確認する。(答えが10より大きい)
- ・ブロックを操作して、答えを考えてみる。
- ・考え方を残すため、ワークシートのブロック図に書き込むようにする。

【予想される児童の反応例】

<p>A: 8は後2で10。 加数の7を2と5に分解する。 8と2で10。10と5で15。</p>	<p>B: 7はあと3で10。 被加数の8を3と5に分解する。 7と3で10。10と5で15。</p>
<p>C: 8は5と3。7は5と2だから、5と5で10をつくる。 3と2で5。10と5で15。</p>	<p>D: 8から数えだし</p> <p style="text-align: center;">9 10 11 12 13</p> <p style="text-align: center;">14 15</p>

- ・思いつかない児童に対しては、どうやれば10ができるかと尋ね、10といくつで表す方法を思い出させる。
- ・できたら、他の方法も考えてよい。ことにする。

協同探究

- ・ホワイトシートにブロック図を書いておき、代表者に書き込ませる。

☆違うところ

- ・10のまとまりの作りがちがう。
- ・7を分けるのと、8をわける、両方分けるところ。
- ・うごかさなくても、5と5をかこめば、10になる。

☆共通していること (本質)

- ・10のまとまりを作っている。 ・ 10とあと5で、15になる。

展開問題

「きょうも、どんぐりをひろいました。おねえさんは9こ、おとうとは6こひろいました。ぜんぶでなんこになるでしょう。」

式 $9 + 6 =$ (15だな)

- ・加数分解、被加数分解等の考え方を使って、考えるようにする。
- ・考え方をワークシートに書き込むようにする。

【導入問題のポイント (よさ)】

- ・被加数の8を分解しても、加数の7を分解しても、10のまとまりがつくりやすい。
- ・ぱっと見て、5と5がならんでおり、10のまとまりが意識できる。
- ・数えただしても答えが分かれば安心できる。

【考えやすい工夫】

- ・どの児童も答えはわかるように、ブロックを操作するようにする。
- ・10の補数が2や3だと見てわかるように、ブロックの空白の部分に注目させる。
- ・ブロックは、動かすと考えが消えてしまうので、ブロック図に、記録を残すようにする。

【協同探究の進め方、工夫】

- ・多くの児童が考えると思われるAから発表させ、理由を尋ねることで、考えを確認する。
- ・同じ考え方の児童に挙手させ、別の児童にもう一度説明させることで、理解を深める。
- ・それぞれの考えの違うところ、同じところを尋ね、10の作り方は違うが、10のまとまりをつくっていることは同じことを確認する。

【展開問題のポイント (よさ)】

- ・導入問題と同じ文脈で、児童が考えやすい。
- ・9に対して加数分解でも、6に対して被加数分解でも、5と5で10でも、10のまとまりを作ることができる。
- ・導入問題で学んだことを使って、自分はこの方法で解こうか決めて、考えることができる。

【本時の評価】

A: 十分満足できる状況

ブロックを用いて、繰り上がりのあるたし算の答えを求める方法を説明できる。

B: おおむね満足できる状況

ブロックを用いて、繰り上がりのあるたし算の答えを求めることができる。